

令和6年度 沖縄市中学生海外短期ホームステイ派遣事業 — 事業報告書 —



派遣期間：令和6年10月5日～10月19日

沖縄市教育委員会

目 次

I 派遣事業内容 —The Contents of the Project—

派遣生徒名簿	P 1
事業日程	P 2
派遣研修日程表	P 3-4
写真で見るホームステイ	P 5-9

II 派遣生徒レポート — The report by Students—

《派遣生徒》

吉本 莉美加	越来中学校	P 10-11
島袋 紗帆	コザ中学校	P 12-13
金 主賀	山内中学校	P 14-15
岸良 萌愛	美里中学校	P 16-17
屋良 愛美	美東中学校	P 18-19
山内 怜	美東中学校	P 20-21
新屋 陽	美東中学校	P 22-23
新城 利亜己	安慶田中学校	P 24-25
真栄城 南瑠	宮里中学校	P 26-27
嘉陽田 典祐	宮里中学校	P 28-29
兼城 紗彩	沖縄東中学校	P 30-31

IV 派遣前後アンケート — Questionnaire— P 32-37

V 参考資料 — Reference material—

事業実施要綱	P 28-40
生徒募集要項	P 41-43

令和6年度 沖縄市中学生海外短期ホームステイ派遣事業 派遣生徒名簿

NO.	School's name 学 校 名	School year 学年	Name 氏 名
1	Goeku JHS 越来中学校	2	ヨシモト リミカ 吉本 莉美加
2	Koza JHS コザ中学校	3	シマブクロ サホ 島袋 紗帆
3	Yamauchi JHS 山内中学校	2	キム ジュハ 金 主賀
4	Misato JHS 美里中学校	3	キシラ メイ 岸良 萌愛
5	Bito JHS 美東中学校	3	ヤラ マナミ 屋良 愛美
6	Bito JHS 美東中学校	3	ヤマウチ レン 山内 怜
7	Bito JHS 美東中学校	2	シンヤ ヒナタ 新屋 陽
8	Ageda JHS 安慶田中学校	3	シンジョウ リアナ 新城 利亜己
9	Miyazato JHS 宮里中学校	3	マエシロ ナル 真栄城 南瑠
10	Miyazato JHS 宮里中学校	3	カヨウダ テンスケ 嘉陽田 典祐
11	Okinawahigasi JHS 沖縄東中学校	3	カネシロ サアヤ 兼城 紗彩

令和6年度沖縄市中学生海外短期ホームステイ派遣事業日程

月	日	曜日	項 目	内 容
4	26	金	派遣予定候補生徒の選考・推薦依頼	市教育委員会から市内8中学校へ依頼 選考方法:書類及び作文審査、面接
6	18	火	派遣予定候補生徒の推薦	学校で選考した派遣予定生徒を 市教育委員会へ推薦
	27	木	派遣予定候補生徒最終面接	市教育委員会にて実施
	28	金	派遣生徒決定	
7	16	火	派遣生徒オリエンテーション	自己紹介、ホームステイに向けての意識づくり、 派遣費用等についての説明会
	22	月	サマーイングリッシュスクールA 7/22日～7/26日(金)迄	派遣生徒は原則、サマーイングリッシュスクー ルに参加する。(各校4日間実施) ※最終日はJICA訪問
	29	月	サマーイングリッシュスクールB 7/29日～8/2日(木)迄	
8	2	金	【事前学習会①】	場所:沖縄市役所地下1階(入札室) JOCA(チームビルディング)
	15	木	【事前学習会②】	場所:沖縄市役所地下1階(入札室) JTB出発前準備のご案内
9	13	金	【事前学習会③】	場所:沖縄市役所地下1階(入札室) 帰国後の流れについて
	20	金	保護者説明会	保険加入やビザ取得等についての説明会
10	4	金	○出発式	場所:沖縄市役所7階(教育委員会会議室)
	5	土	■【ホームステイ派遣】 10月5日～10月19日	派遣研修日程表【P3参照】
	19	土		
	25	金	【事後学習会①】	場所:沖縄市役所7階(教育委員会会議室) JOCA(目標の振り返り)
	27	日	【事後学習会②】	場所:センター自治会事務所 JOCA(まちまーい)
11	9	土	【事後学習会③】	場所:沖縄市役所7階(教育委員会会議室) 報告会の発表練習
	20	水	○派遣報告会	場所:沖縄市民小劇場 あしびなー ホームステイで体験したこと、学んだ事等を スライドを見せながら英語で発表

令和6年度 沖縄市中学生海外短期ホームステイ派遣事業 派遣日程

日次	月日	都市名	現地時間	交通機関	内容	食事
1	10月5日 (土)	那覇空港ご集合 那覇空港発 羽田空港着 羽田空港発	13:00 15:45 18:15 22:00	JAL914 QF026	那覇空港／国内線ターミナルにご集合 空路、東京(羽田空港)へ 空港到着後、国際線へ乗継、搭乗ゲートへ 空路、シドニーへ ＜機中泊＞	朝:各自 昼:各自 夕:機内
2	10月6日 (日)	シドニー空港着 シドニー空港発 パース空港着 現地校着 ホストファミリー宅	9:55 12:30 14:40 16:00 夕刻	 QF524 専用バス	空路、パースへ 空港到着後、入国審査、国内線乗継、搭乗ゲートへ 現地校へ移動 ホストファミリーとマッチングタイム、 各自ホストファミリー宅へ移動 ＜ホストファミリー宅泊＞	朝:機内 昼:お弁当 夕:各家庭
3	10月7日 (月)	パース	終日	各自	自然文化体験 カバジャム動物園訪問(オーストラリアでしか見られない動物に会おう) ＜ホストファミリー宅泊＞	朝:各家庭 昼:各家庭用意 夕:各家庭
4	10月8日 (火)	パース	午前 午後	各自	大学訪問ツアー ・現地大学にて、ユースリーダーとキャンパス散策 「キングスパーク」でパースの絶景を体験しよう！ ＜ホストファミリー宅泊＞	朝:各家庭 昼:各家庭用意 夕:各家庭
5	10月9日 (水)	パース	終日	各自	文化体験 ・パース市内観光 パース造幣局や、WAミュージアムを散策 ＜ホストファミリー宅泊＞	朝:各家庭 昼:各家庭用意 夕:各家庭
6	10月10日 (木)	パース	終日	各自	自然文化体験 ・ロットネスト島一日観光 ＜ホストファミリー宅泊＞	朝:各家庭 昼:各家庭用意 夕:各家庭
7	10月11日 (金)	パース	終日	各自	交流体験 ・現地ユースリーダーとフリーマントルでアメージングレース ＜ホストファミリー宅泊＞	朝:各家庭 昼:各家庭用意 夕:各家庭
8	10月12日 (土)	パース	終日	各自	終日自主研修(ホストファミリーと自由にお過ごしください。) ＜ホストファミリー宅泊＞	朝:各家庭 昼:各家庭 夕:各家庭
9	10月13日 (日)	パース	終日	各自	終日自主研修(ホストファミリーと自由にお過ごしください。) ＜ホストファミリー宅泊＞	朝:各家庭 昼:各家庭 夕:各家庭
10	10月14日 (月)	パース	終日	各自	語学研修 ・パース現地校にて年齢の近い学生と一緒に授業体験 ＜ホストファミリー宅泊＞	朝:各家庭 昼:各家庭用意 夕:各家庭
11	10月15日 (火)	パース	終日	各自	語学研修 ・パース現地校にて年齢の近い学生と一緒に授業体験 ＜ホストファミリー宅泊＞	朝:各家庭 昼:各家庭用意 夕:各家庭
12	10月16日 (水)	パース	終日	各自	語学研修 ・パース現地校にて年齢の近い学生と一緒に授業体験 ＜ホストファミリー宅泊＞	朝:各家庭 昼:各家庭用意 夕:各家庭
13	10月17日 (木)	パース	終日	各自	語学研修 ・パース現地校にて年齢の近い学生と一緒に授業体験 ＜ホストファミリー宅泊＞	朝:各家庭 昼:各家庭用意 夕:各家庭
14	10月18日 (金)	パース空港着 パース発 シドニー空港着 シドニー発	午前 9:00 11:35 18:40 21:20	専用バス QF648 QF25	パース空港へ向け出発 空港到着後、搭乗手続き・荷物預け・出国審査 空路、シドニーへ 空路、東京(羽田)へ ＜機中泊＞	朝:各家庭 昼:機内 夕:機内
15	10月19日 (土)	羽田空港着 羽田空港発 那覇空港着	5:20 9:35 12:20	JL909	空港到着後、搭乗ゲートへ移動 空路、那覇空港へ ご到着後、解散となります。お疲れ様でした。	



GOLD
EDUCATIONAL
TOURS

BOB HAWKE COLLEGE TIMETABLE

OKINAWA BOARD OF EDUCATION HIGH SCHOOL

	MONDAY 14 OCTOBER	TUESDAY 15 OCTOBER	WEDNESDAY 16 OCTOBER	THURSDAY 17 OCTOBER
CREW TIMES (NON-CREW TIMES)	CREW DAY	NON-CREW DAY	NON-CREW DAY	NON-CREW DAY
PERIOD 1 08:50-09:50 (08:55-09:55)	ORIENTATION & BUDDY MATCHING	CLASS WITH BUDDY	CLASS WITH BUDDY	CLASS WITH BUDDY
PERIOD 2 09:50-10:45 (09:55-10:55)	CLASS WITH BUDDY	CLASS WITH BUDDY	CLASS WITH BUDDY	CLASS WITH BUDDY
	RECESS 10:45-11:15 (10:55-11:25)			
CREW 11:15-11:40	CLASS WITH BUDDY	-	KARATE DEMO & DRAMA CLASS	-
PERIOD 3 11:40-12:35 (11:25-12:25)	CLASS WITH BUDDY	CLASS WITH BUDDY	CLASS WITH BUDDY	CLASS WITH BUDDY
PERIOD 4 12:35-13:30 (12:25-13:25)	CLASS WITH BUDDY	CLASS WITH BUDDY	CLASS WITH BUDDY	CLASS WITH BUDDY
	LUNCH 13:30-14:00 (13:25-13:55)			
PERIOD 5 14:00-14:55 (13:55-14:55)	CLASS WITH BUDDY	CLASS WITH BUDDY	CLASS WITH BUDDY	CLASS WITH BUDDY

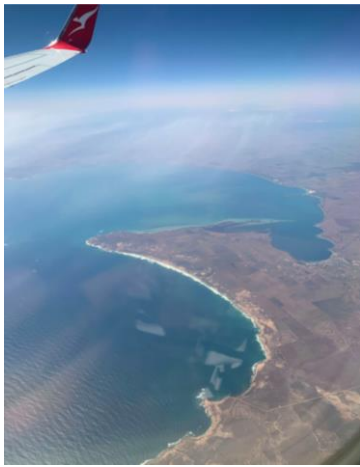
写真でみるホームステイ I

【8/2・15、9/13、10/4 事前学習会・出発式】



写真でみるホームステイ Ⅱ

【10.5～10.19 ホームステイ】



写真でみるホームステイ Ⅲ

【10.5～10.19 ホームステイ】



写真でみるホームステイⅣ 【10.5～10.19 ホームステイ】



写真でみるホームステイ V

【10/14・25・29事後学習 11/20報告会】



— 派遣生徒レポート —



海外ホームステイを通して

越来中学校 2年 吉本 莉美加

ずっと夢見ていた「海外へ行く」がついに現実になりました。2024年10月、私は、2週間のホームステイプログラムに参加し、西オーストラリア州のパースに滞在しました。現地の季節は「春」でした。最初にオーストラリアに到着したとき、自分が本当に海外にいるということが信じられず、夢の中にいるような気持でした。ずっと願い続けてきたことが、ついに実現したのです。

私が滞在したのはNobiさんとDavidさんの家庭です。パースに到着し、初めてホストファミリーにあった日、4人でパース市街のビーチへ行き、夕陽を見ながら話をしました。ホストファミリーはとても優しくて面白く、放課後の週末には、さまざまな場所に連れて行ってくれました。特に印象深かったのは、David



さんの息子が所属するバスケットボールチームの試合に参加したことです。突然試合に出場することになり、緊張しながらもディフェンスで活躍できたのは忘れられない経験です。試合後、チームの人々とハイタッチや記念撮影をしたことは、私にとって特別な思い出となりました。

週末には、町から離れて郊外の田舎町行きました。そこで、ホストファザーの姉と会いました。彼女は優しく、友好的な方で、私たちが訪ねて行った時には、オーストラリアの伝統菓子のラミントンでおもてなしをしてくれました。とてもおいしかったです。そして、トゥージェイとヤークという2つの田舎町にも行きました。そこにはクリスマスショップやコカ・コーラのカフェなど興味深いお店が並んでいました。また、たくさんの羊がいて、羊刈り大会なども行われていた。

滞在一週間目は、いろんな所に行きました。現地の大学、キングスパークや街の散策、動物園や博物館などを訪れ、街の歴史や文化に触れることができました。どれも興味深い部分がたくさんありましたが、一番行ってよかったと思う場所は、ロットネスト島です。ロットネスト島へはフェリーに乗っていきます。そこには、クオッカという有袋動物が島

のいたるところで見ることができ、彼らは、ちいさなカンガルーのような見た目でもとても可愛かったです。そして、島の海は、沖縄の海と比べてもさらにきれいだと感じました。

2週間目は現地の中高一貫校に通い、バディーのテンゼンとともに学校生活を体験しました。日本にはない様々なクラスがあり、ドラマの授業やいろいろな言語の授業そし

て、コンピュータなどの授業をバディーとうけました。テンゼンはブータン出身でしたが、学校には中国、インド、日本など多国籍の生徒が多く、さまざまな言語やアクセントに驚き、そして文化の違いを肌で感じました。その中でも特に印象に残ったのは、日本語クラスの生徒たちに習字を教えたことです。生徒たちは「wow」「cool」と興味を示し、一生懸命

命に取り組んでくれました。異文化交流を通じて、日本の文化を伝えられたことに大きなやりがいを感じました。

この13日間のホームステイを通して、英語でのコミュニケーション力が上達しただけでなく、多くの人々と交流し、異文化を理解する力も深まりました。学校では英語しか話せず、そこで英語で自分の意思を伝えることの難しさを感じながらも、挑戦することで成長できたと思います。また、ホストファミリー、他のファミリー、沖縄県人会の人など多くの人と話すことができコミュニケーション力も上達したと感じています

私は、この経験を通じて「次は海外に住んでみたい」という新たな夢ができました。これからさらに英語を学び、多くの国の人々と交流を深めていきたいと考えています。



Teaching
Calligraphy



ホームステイを通して感じたこと

コザ中学校 3年 島袋 紗帆

私がこの留学プログラムに参加したいと思ったきっかけは、英語だけを使う環境で生活してみたいという好奇心からでした。研修を重ね、出発の日が近づき、段々と海外に行くという実感が湧いてきて、とてもワクワクしていました。

現地に到着して、私のはじめて言語の壁を感じたのは、ホストファミリーとの会話でした。今まで聞きなれていた英語とは異なり、アクセントやリダクションの違いから聞き取りづらい感じ、不安な気持ちになりました。しかし、注意深く相手の話を聞くようにし、わからないことがあれば「もう一度言ってください」とお願いをしました。ホストファミリーは快く応じてくれ、そのおかげで次第に英語の聞き取りができるようになりました。また、自分が自然とリアクションをしたりしていたことにびっくりしました。



ホームステイ2週目、私たちは現地校での学校生活がはじまりました。同世代の人たちと話すことをとても楽しみにしていましたが、ホストファミリーとの会話よりもさらにカジュアルで、とても速い英語に混乱しました。授業では、先生のオーストラリアのなまりが聞きとれず苦労しましたが、辞書を使って知らない単語を調べたり、わからないことは積極的に質問するようにしました。時間はかかりましたが、先生の言葉が理解できた時は、とても嬉しかったです。英語が聞き取れなくても、諦めたり、聞き流したりせず理解しようと意識すると、今までよりも聞き取れることが増え、英語で会話することへの抵抗感がなくなっていました。この経験は、私の中で大きな一歩になったと思っています。

また、日本の文化を伝えることも簡単ではありませんでした。日本語授業で習字を教えたとき、現地の生徒たちは初めて見る道具や文字に興味を持ちながら、自分のスタイルで文字をかこうとしてしまう人がいました。そのため、筆には持ち方があることや、文字を書くときのルールなどをひとつひとつ説明しました。私たちが常識だと思っていたことを相手に伝えるには、時間をかけ丁寧に説明する必要がありました。また、日本特有の言い回しや、習字の用語などを英語で伝える難しさも感じました。それでも、生徒たちが完成した字をみて笑顔になってくれるのをみると、とても嬉しくなりました。

これまで私は、習字を人に教えたことはあまりありませんでしたが、今回の日本語授業で挑戦してみると、感じたことがない感動がありました。この気持ちを大切に、将来に活かせるようにしたいです。

学校の最終日には、これまでお世話になったバディにむけてパフォーマンスを披露しました。私はそこで三線を弾くことになったのですが、正直自分にできるのかと不安でした。私は三線を習っていたわけではなく、たまたま祖母の家にあったものを好きで鳴らしていて、それをみた祖母が楽譜の読み方と、弾き方を教えてくれました。中学校になってからは祖母の家に行く機会も減り、三線に触れることも少なかったのですが、オーストラリアで練習のために借りた三線の音色を聞いて、昔自分が好きだったことを思い出しました。それからは「なんとしてでも成功させたい」と思い、集中して練習をし、本番で披露することができてよかったと思っています。この経験を通じて、日本のことや沖縄のことをたくさん教えてくれた祖母に改めて感謝しています。

私は、今回のオーストラリアへのホームステイでは、日本では経験することができないような貴重な経験をたくさんすることができました。特に自分の意志を伝えることの大切さを学びました。人とコミュニケーションをするうえで、言葉はとても大切な要素ですが、身振り手振りを交えながら、とにかく「伝えたい」、「伝わってほしい」という思いを意識することで、言葉が通じなくても人とつながることはできると実感しました。

この歳で海外を経験できたことは、私にとって大きな意味がありました。私が思っていた以上に世界は広くて、たくさんの素晴らしい場所や人々いることを知ることができました。同時に、自分の国の良さにも気づき、価値観を広げることができました。

この事業に携わったすべての皆さんへの感謝を忘れずに、今後の人生につなげていきたいと思っています。そして将来は、自分がこの素晴らしい機会を与えられるような人になりたいです。



ホームステイを通して感じたこと

山内中学校 2年 金 主賀

僕がこのホームステイに参加したかった理由はいくつかありますが、1番の大きな理由は英語でいろんな人と話せるようになりたいと思ったことです。現在学校で英語を学んでいますが、それ以上にテレビなどで見る日本人が英語でペラペラしゃべれているのを見ると、自分もそうなりたいと強く感じたことがきっかけです。出発が近づくにつれて、だんだんと不安も大きくなっていきましたが、いざホームステイに参加すると沖縄では経験できないとても素敵な時間を過ごすことができました。

ホームステイ1週目は、パース市内で有名なところを実際に見て勉強する時間でした。例えば、動物園や博物館などいろいろなところに行って建物や風景をじっくり見ることができました。その中でもロットネスト島がとても印象に残っています。なぜなら僕は動物がとても好きなので、クオッカがたくさんいると聞いたときとてもうれしかったです。しかし、クオッカに触れる事は禁止という説明を聞いたので、とても残念な気持ちになりました。この1週間は、毎日が驚きと感動の連続で、たった2週間のホームステイでは足りないなと感じていました。



2週目は現地校での学校生活が始まりました。そこでの1番の思い出は、日本の学校にはない「リセス」という午前中にある20分-30分ほどの長めの休み時間があったことです。リセスの時間には多くの生徒がバスケットボールをしたり、おやつを食べたりして過ごしていました。

授業では、エンジニアリングという教科が印象的でした。その授業はただ絵を描くというわけではなく、それぞれの生徒が好きな絵を描いて、オリジナルのデザインを決めて、色塗りをしていくという授業でした。現地の生徒は、みんな慣れているのか、迷うことなくペンを動かし、次から次にアイデアが出てくる様子にとっても驚きました。

僕のバディーは、フィリピン出身の生徒で、彼は僕にとっても優しく学校について、いろんなことを教えてくれました。バディーに限らず、オーストラリアの人々は、とてもフレンドリーで、すぐ仲良くなれて学校でもいろいろな生徒が声をかけてくれました。しかし、僕自身の英語の表現力に課題があり、表情やジェスチャーなど簡単な答えでしか答えることができなくて、とても悔しく感じました。

私を迎えてくれたホストファミリーと初めて会ったときも、どうすればいいのか、どうやって声をかければいいのか全くわかりませんでした。しかし、ホストファミリーのメンバーはとても優しく、質問や提案などいろいろなことを私のために尽くしてくれました。

が、私が聞き取ることができず、ポケトークを使って丁寧にゆっくり説明してくれました。しかし、すこしずつ慣れ、自分の考えを伝えることができたときの喜びは、言葉では表せないほどの達成感を感じました。もし、僕がもっと流暢に会話ができているならば、さらにオーストラリアのことや自分自身のことも紹介ができたのではないかと感じています。

オーストラリアから帰国後は、「少しだけできるようになった」という達成感とたくさんの悔しい気持ちと「もっとできるようになりたい」という感情が入り混じった不思議な気持ちになりました。最初は話すこともできず、返事をすることもできなかった自分がだんだんと聞き取れるようになってきて、自分の気持ちをジェスチャーで表現できるようになりました。これは自分自身が最後まで諦めずにチャレンジしようとする心がそうさせたのだと思います。ただもっとこうやって表現できればよかったと言う気持ちや、あの場面ならこういうことを言いたかったのにという悔しい気持ちもあります。

もし今後このような機会があれば、必ず挑戦していきたいと考えています。そのためにも今後はさらに英語力に磨きをかけて、中学卒業までには英検2級を取得したいと思っています。私自身は、韓国籍でもあるので、日本語、韓国語、英語と3カ国語を話せるようになりたいです。また、このホームステイでは英語だけではなく、自分から積極的に行動することの大切さを学びました。何事も積極的に自分から行動することで、どれだけ難しいことがあっても、解決策や次につながる行動力になると思います。

今後どんな困難があったとしても挑戦する姿勢でいたいと思います。そして、最後にこのような素晴らしい機会を与えてくれた沖縄市教育委員会に感謝しています。本当にありがとうございました。



Beautiful two weeks in WA

美里中学校 3年 岸良 萌愛

今年の10月、私はホームステイプログラムに参加し、オーストラリアで貴重な経験をしました。私は1年生の頃からホームステイに行ってみたくて勉強を続けてきましたが、自分の英語力に自信がありませんでした。そんなときに学校からホームステイの派遣事業があると聞いて、これは自分の英語力を試せるいい機会になるかもしれないと思い応募しました。派遣生徒に選ばれたときは、先生が私の実力を認めてくれたと思い嬉しかったです。それからは、これまで文法を中心に学習していましたが、「話すこと」を中心にした学習に変えました。

ホームステイの初日は一人ということもあり、緊張と不安が大きかったです。焦って単語が出てこなかったり、声が小さくなってしまい、会話があまりはずみませんでした。しかし、最終日になる頃には自分の意見を伝えることができるようになっていて、言葉の壁を超えるだけでなく、自分自身の成長を感じさせる大きなチャンスとなり、経験となりました。

ホストファミリー

私のホストファミリーは、ホストマザーのティナとホストシスターのアメリーの二人でした。ティナはドイツ出身でドイツ語、英語、フランス語の3ヶ国語を話せることが出来ると聞いて驚きました。彼女はいつも笑顔で、私に気遣って接してくれる親切な人でした。ホストシスターのアメリーは、いつも明るく元気で、可愛らしい女の子でした。彼女は散歩に行くとき、いつも私を誘ってくれて嬉しかったです。そして、放課後や休日には、様々なアクティビティを用意してくれました。例えば、ハロウィンの飾りを作ったり、パースの町を船で見に行ったりと、日本ではできないような体験を楽しむことができました。中でも、ボーリングに行ったことが一番の思い出です。日本のボーリング場とは少し違っていたので印象に残っています。また、私のホストファミリーや近所の人達はとてもフレンドリーで、日本から来た私に対して明るく、優しく接してくれました。そのお陰で私は成長することができ



ました。会話の中では、わからない言葉はたくさんありましたが、その時はその単語について丁寧に説明してくれたり、別の表現に置き換えて話してくれました。

ホストファミリーは、オーストラリアの食文化や生活についてだけではなく、ドイツについても学ぶことができ、貴重な経験になりました。

学 校 生 活

現地の学校で出来た友達みんなフレンドリーで、話しやすかったです。個性的で明るい子が多く、一緒に過ごしているだけでも楽しかったです。そして、男女に関係なく仲良くしているのが印象的で、素敵だなと思いました。

授業は日本よりとても自由な雰囲気、授業中に集中力が切れたらアウトサイド(教室の外)に行って読書をしてもらいます。授業の内容も多様で、ドラマクラスがあったり、様々な言語を学べるクラスがあったりと、自分の興味や学びたい分野を選べる点が魅力的でした。その中でも私が一番気に入ったのは日本語クラスです。先生はシンガポール人でしたが、とても日本語が上手かったです。そして、私が学校でお気に入りだった場所は、カフェテリアです。カフェテリアではみんなでお喋りを楽しみながらリセス（休み時間）を過ごしたり、昼食を食べたりしました。また、ドラマクラスを受けたときに出来た友達とも会えるので一番お気に入りの場所でした。



ホームステイを通して

今回のホームステイを通して、第一言語ではない「英語」で会話をする中で、相手と通じ合える喜びを改めて感じることができました。

また、日本とは異なる新しい文化に触れることができ、とても良い経験になりました。ホームステイで学んだことは、すべてを完璧に理解しなくてもいいということです。そして、失敗を恐れてはいけないことです。この経験は、間違いなく私にとって貴重で価値のあるものとなり、今後の自信にもつなげることができました。今後もこの経験をバネに、自分の将来の夢に向かって学び続けていきたいと思いました。

私を受け入れてくれたホストファミリー、現地でできた友達、先生方、そして誰よりもそばで応援してくれていた家族には感謝しかありません。

本当にありがとうございました。

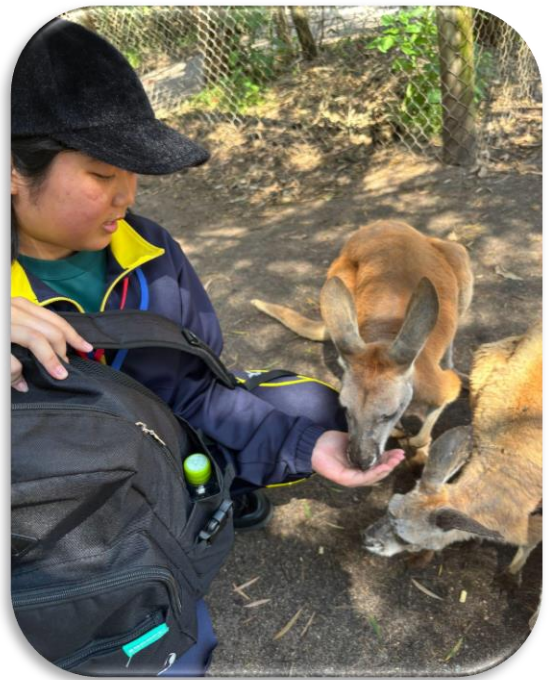
オーストラリアでのホームステイ

美東中学校 3年 屋良 愛美

私は沖縄市中学生海外短期ホームステイ派遣事業に参加しました。沖縄の那覇空港から出発するときは、まだ海外に出発するという実感が湧きませんでした。しかし、羽田空港で国際線に乗り継ぐ際、搭乗手続きをして荷物を預け、パスポートを**使う場面**で「本当に生まれて初めての海外に行くんだな」という実感が湧き始めました。**そして**、シドニー空港に**到着すると**、乾燥した冷たい風と気温でとても過ごしやすい涼しさだと感じ、「海外に来たんだな」と実感しました。同時に、これから過ごす二週間にとてもワクワクしたことを覚えています。過ごすうちに、日本とは違い、昼と夜の温度差が思っていたよりも大きく、昼は過ごしやすくても朝や夜は少しだけ寒いと感じる気温でした。

1週目は主にオーストラリアの歴史や文化などを学ぶため観光をし、西オーストラリア大学やロットネスト島、Cavershan Wildlife Park（野生動物公園）などに行きました。西オーストラリア大学では、現地のユースリーダーの方々が出迎えてくれ、英語で大学内を案内してくれました。英語をすべて聞き取ることは難しかったですが、自然豊かな大学で教会があったり、野生の白いクジャクがいたりして、色々な単語を学び知識を増やすことができました。ロットネスト島では、透き通った海をみて、「世界一幸せな動物」と言われる有袋類のクウォッカに会いました。Cavershan Wildlife Park（野生動物公園）では、今までにあったことのないオーストラリアの代表的な固有種であるコアラやカンガルー、ウォンバットとふれあいました。それらは、私にとって素敵な体験でした。

語学学習では、「BOB HAWKE COLLEGE TIMETABLE」という現地の学校に行きました。初日の一時間目には、「DRAMA CLASS」で現地の生徒たちと親交を深めました。そ



の学校は、授業ごとに休み時間はなく、休憩できるのは、二、三時間目の間にある「リセス」と呼ばれる休憩時間とランチタイムだけでした。また、私は体育の授業で「ラクロス」というスポーツを経験しました。初めて聞くスポーツでしたが、ルールはとても簡単で誰でもできるようなスポーツでした。学校最終日、私達はお世話になったバディや先生方に沖縄の歌と伝統文化である島人ぬ宝とエイサーを披露しました。現地校の生徒は、私達が授業で習うような英語ではなく、カジュアルな英語で話していたので全然聞き取ることが出来ませ



んでした。しかし、ジェスチャーを使って伝えてくれたり、知っている日本語の単語で教えてくれたりしてコミュニケーションを取ることが出来ました。

ホストファミリーは、とても優しく親切で個性豊かな家族で、とても楽しい二週間を過ごすことが出来ました。彼らは私達を暖かく迎えてくれ、もてなしてくれました。ホストファミリーは、週末にいちご狩りに連れて行ってもらい、そのいちごでジャムやスムージーを作ったり、毎日の食事で、私達が楽しめるようにと細かいところまで気を使ってくれました。オーストラリアでの生活は、沖縄との違いがたくさんあって、異文化理解が深まり、今まで当たり前だと思っていたことが、とてもありがたいものだ気付かされました。

今回のオーストラリアでの経験は、英語でのコミュニケーションに対する私のイメージを変えました。それまでは、英語の文法が完璧じゃないとダメだと思っていましたが、コミュニケーションでは伝えようとする気持ちがあれば単語だけでも思いは伝わるということを、実際に体験し、学ぶことができました。また、私はこのホームステイで様々な面で成長することができました。ホームステイの前まで私は、留学をしたいと思っていませんでしたが、今回のホームステイは自分自身で外国の良さをを感じる大切さを教えてくれました。私は、このホームステイに参加できてとてもうれしいです。そして、オーストラリアホームステイ派遣事業に携わってくださったたくさんの方々に感謝しています。

ホームステイを通して学んだこと

美東中学校 3年 山内 怜

僕はホームステイに行く前はホストファミリーとうまくやっていけるかとにかく不安でした。飛行機に乗ってホストファミリーに会う時間が近づくにつれて緊張は大きくなっていき、他の沖縄市から行く中学生と離れるのが恐かったです。オーストラリアに到着してからは、すぐホストファミリーと顔をあわせ、家に向かいました。車に乗ったときはすぐくどきどきしていましたが、家族と会話しているうちに、彼らがすごく優しいことがわかってきて、少しずつ安心していきました。家に着くと、他のホストファミリーとも挨拶をしました。みんな優しく僕を暖かく迎え入れてくれたとき、「思っていたよりホストファミリーとの生活を楽しんでいけそうだ」と思えました。



最初の1週間は、オーストラリアの文化や歴史を学ぶためにたくさん観光をしました。その中でも印象に残ったことは動物園に行ったことです。理由は日本では見られない動物が多く見られただけでなく、動物との触れ合いが多いと感じたからです。その週の土日はホストファミリーと自由に過ごす時間でした。2日間他の中学生と会えず、ずっとホストファミリーと過ごすことには不安や寂しさを感じていましたが、ファミリーは僕を色々なところに連れて行ってくれて、さらに美味しい料理も食べさせてくれて充実した2週間を過ごすことができました。また、ホストファミリーとたくさん思い出を作ることができました。

翌週は現地校体験をしました。僕のバディはホストファミリーのメンバーだったので、バディとの関係に心配はありませんでしたが、初めて外国の学校に行くということで学校生活に馴染めるか不安を感じていました。その学校で一番最初に受けた授業はドラマクラスで、演技をしたり自分で考えたポーズをしたりする内容で、僕の学校にはない授業だったのでおどろきました。その授業の中で他の生徒と一緒に会話や演技をしてすぐ仲良くなったのが嬉しかったです。また、その学校にはたくさんのバスケットコートがあり、休憩時間に他の生徒とバスケットをして楽しみました。僕の学校にはバスケットコートは一つもないので驚いたし、羨ましいと思いました。

この2週間では英語の力はもちろん伸びましたが、それよりもコミュニケーション力も成長したと強く感じました。なぜなら、現地の人たちのフレンドリーな性格に僕も影響を受けたし、言語があまり通じない中でコミュニケーションをとろうと、言語以外のジェスチャーや表情などを使って伝えようと頑張ったからです。また、オーストラリアではバスケットリングがある家が非常に多いことや、近所の人同士の仲が良いことが印象に残りました。実際に、ファミリーが犬の散歩をしているとき、すれ違った人と会話をしていたり、僕も向かいの人の家で一緒にバスケットをさせてもらったりしました。

僕はホームステイに行く前は、2人で1つの家に行く人が多いのに自分は1人で行くことに対してすごく不安でしたが、1人だったことで家族とのコミュニケーションを取ることを更に頑張れたり、他の人の目を気にせず英語に挑戦できたりして、自分の成長につながったと感じました。終わってみると、行く前に感じていた不安や心配は必要なかったと思えるほど、ホストファミリーは優しく、オーストラリアでの生活は楽しかったです。

今回初めて会う外国の人たちと思っていたよりコミュニケーションがとれたことで、英語に限らず自分に自信が持てるようになり、行く前よりも人と関わるのが苦手ではなくなったと思います。そのような社交性が身についただけでなく、外国に出てみて初めて、文化を紹介するために書道や三線など自分たちの文化を身につけることは大事だと気づけたのも大きな成長だったと思います。

この2週間で、自分のこれからの人生に役立つ貴重な経験がたくさんできました。私がこの経験をするために支えてくれた人たちにはすごく感謝しています。



オーストラリア短期留学を通して

美東中学校 2年 新屋 陽

2週間のオーストラリア短期留学へ参加しました。飛行機の中では英語アナウンスが流れ、聞き取るのに苦労しました。オーストラリアは土地が広く、移動にとっても時間がかかり広大さに驚きました。

私たちはオーストラリアのUWA(University of Western Australia)というオーストラリアの大学へ行きました。その大学はとても広く、UWAの学生さんと一緒に大学内を見て回りました。その人たちはとてもフレンドリーでした。大学内には数多くの歴史的な建物があり、珍しい植物もたくさんいました。野生のかなり大きな鳥もありました。また、その大学にはいろんな学部があり、とても多くの学生が通学していました。その中でも僕が気に入ったのは数学と理科の専門の学部です。

特に印象に残ったのは、建物のデザインが個性的だったことです。階段の中に教室があったり、日本でもなかなか見られない構造になっていました。大学の中には数多くの店がありました。学生さんたちはそこで昼食を買っている人もいます。

僕たちは数多くの店がある中、「どの店が人気なのか」と疑問に思いました。そこで僕たちは、通りすがりの学生さんたちに好きな店を英語でインタビューしました。最初は、「自分の英語はちゃんとできているのかな」「ちゃんと相手に伝えられるかな」など不安に思っていたのですが、会話を続けていくにつれてだんだん自信が持てるようになりました。

キャンパスを回っていると不思議な光景を見かけました。それは、芝生に小さなロケットが置かれていて、その周りにヘルメットを被った人たちがいたことです。僕は、案内してくれた学生さんに、向こうの人たちに何をしているのかを聞きに行く許可をもらい、英語で「What are you doing?」と質問しました。すると、難しい単語が多く出てきましたが、「made」や「rocket」、「experiment」が聞き取れたので、なんとなく言っている意味は理解できました。おそらく、「ロケットを作って飛ばす実験」をしていたんだと思います。意味がわからない単語が出てきても、その前後の英単語から聞き取って文の意味を理解できるようになりました。UWAに行って、日本の大学との違いを知ることと、自分の英語力の強化ができました。



この短期留学では、パースの学校へ通いました。そこでも生徒たちはみんなフレンドリーで、英語を話す自信をさらに持つことができました。そこでは留学生1人1人にバディがついていて、僕もバディとたくさん話し、遊びました。僕のバディはたくさんの友達がいる、その友達に日本について何度も質問されました。最初は戸惑いましたが、UWAで習得したスキルで全部答えました。その中には、日本語を話せる人や日本から来た学生さんもいました。オーストラリアの学校では日本語、イタリア語、フランス語を学んでいる生徒もいて、外国語教育の幅広さに驚きました。休み時間にはみんなでバスケットをして楽しみました。ただ、日本とは大きく異なる学校生活に戸惑うこともありました。例えば、休み時間も長く、自分で昼食を持ってくるのもOKだし、食堂でご飯を買って食べるのもOKでした。また、授業中に何をしてもいいというルールもあり、日本の学校とは全く違っていて驚きました。このような経験は日本では決してできないことだと思います。



この短期留学を通して、たくさんの経験することができました。この経験を忘れることなく、学校生活や部活を頑張っていきたいと思います。

今回の留学をサポートしてくださった先生方やホストファミリーには、とても感謝しています。



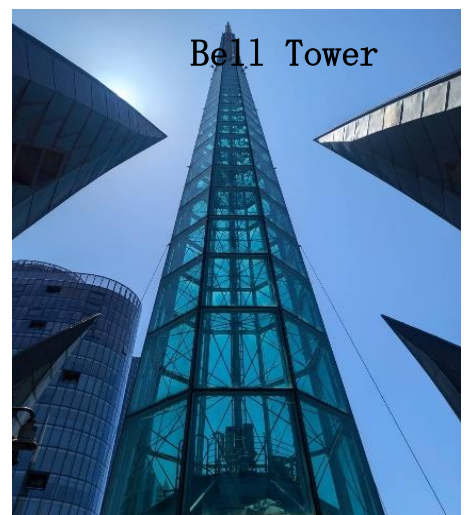
オーストラリアで学んだこと

安慶田中学校 3年 新城 利亜己

私は、オーストラリアのパースでの2週間のホームステイに参加しました。海外でのホームステイは初めてだったため、期待と不安が入り混じった気持ちでした。特に、英語でのコミュニケーションがうまくできるかどうか心配でしたが、この機会を通じて新しいことを学び、英語が話せるようになりたいという思いで参加を決めました。

私は今回のオーストラリア短期ホームステイで、たくさんを知り、経験し、そして学ぶことができました。私は、ホームステイという形で海外に行くのが初めてで、とにかくせっかく行けることになったので、これまで習ってきた英語を使ってできるだけ積極的に会話をしようと思っていました。しかし、私が学校で習っていた英語とオーストラリアで聞いた英語は、想像していたものと全く違いました。私達が学校で習っているのは、主にアメリカで使われている英語ですが、オーストラリアは、かつてイギリスの植民地だったという歴史上の理由もあり、どちらかというといイギリス英語に近い発音です。例えば、**can**を私達のように「キャン」と発音せず、「カン」と発音したり、**today**を「トゥデイ」ではなく、「トゥダイ」と発音します。そのため、初めてホストファミリーと会ったときは、聞き取るのにはかなり苦戦しました。ホストファミリーの方々は、私達に合わせて英語をゆっくり話してくれますが、現地校の生徒たちは普段とおりに話してくるので、何度も聞き直してしまうこともよくありました。そして、私が期待していたように英語を聞き取ったり、話すことができず、悔しいと思うこともありました。

1週目は、オーストラリアの文化や歴史を学ぶために、多くの場所へいきました。ロンドンコートやベルタワーなど、パースの美しい街並みを楽しみました。その中でも、ロットネスト島の透き通った海はとても印象的で感動しました。沖縄の海も綺麗ですが、オーストラリアの海はまた違った魅力がありました。また、ロットネスト島で出会ったクオッカや、動物園で見たウォンバットなど、オーストラリア固有の動物たちは、とても可愛らしく、オーストラリアでしか体験できないことでした。



2週目は、現地校での学校生活が始まりました。バディのエイミーさんにサポートしてもらいながら授業や交流を楽しみました。エイミーさんはアイルランド出身で、初めはうまく英語が伝えられず苦戦しましたが、彼女のおかげで次第に自信を持って話せるようになりました。最終日には学校の生徒たちにエイサーや

「島人ぬ宝」を披露し、大きな拍手をもらったことがとても嬉しかったです。

このホームステイを通して、学んだことは2つあります。1つは、英語の発音の違いです。2つ目は、コミュニケーションは言葉だけでなく、ジェスチャーや表情でもできることを学びました。当初は、完璧な英語で話さなければならないと考えて

いましたが、案内をしてくださった方から「単語やジェスチャーでも十分伝わる」と教えていただき、それからは無理に文章を作るのではなく、自分らしくコミュニケーションを取ることを意識しました。ホストファミリーや学校の友人たちと少しずつ打ち解け、帰る頃にはすっかり仲良くなれたことが自分にとって大きな自信につながりました。また、異国の文化や自然を体験したことで、自分の視野が広がったと感じます。沖縄にはない新しい価値観を知ることができたのも、貴重な経験でした。

このホームステイで得た経験を活かし、これからさらに英語力を磨いていきたいと思います。また、ジェスチャーや表情でのコミュニケーションを通して、相手と心を通わせる大切さを知ったので、これを日常生活でも活かしていきたいです。そして、将来的にはもっと長い期間海外に滞在し、多くの国の文化を学びたいと考えています。このような素晴らしい機会を与えてくださった皆さんに心から感謝しています。特に、委員会のブランク先生、新垣つやこ先生、オーストラリアで案内をしてくださったゴールド社の方々、JICAの方々、そして沖縄市役所の仲村卓さんや井黒男さん、本当にありがとうございました。この経験を忘れずに、これからも成長を目指していきたいです。



ホームステイを通して感じたこと

宮里中学校 3年 真栄城南瑠

私は初めて海外、オーストラリアに行き、日本との違いに圧倒されました。まず驚いたのが気候です。オーストラリアは南半球に位置し、年中乾燥しているため、高温多湿な沖縄の気候とは正反対なのでびっくりしました。羽田からシドニーへのフライトから降りた瞬間、その違いを実感しました。また、気候だけでなく、シドニーからパースへの国内線では、飛行時間は四時間かかることにびっくりしました。それと、国内線なのに空港でパスポートをみせたり、機内食がだされたりしたこと、さらにシドニーとパースの間に三時間もの時差があることに驚きました。

パースに到着しれからは、すぐにホームステイ先の家に向かいました。家に向かっていく途中、日本車が多いこと、道がとっても広いこと、建物が赤レンガでつくられたものがおいことや、道端に生えている植物が白っぽい緑色をしていることなど、日本ではみられない光景ばかりで驚きました。

一週目、パース市内の観光を通してたくさんのことについて知ることや体験することができました。動物園ではウォンバットをさわったり、コアラをさわったり、カンガルーに餌やりをしたりなど様々な体験をしてオーストラリア固有の動物の特徴や習性などについて知ることができました。アボリジニ博物館ではアボリジニの人たちの独特の文化や歴史について知ることができました。



UWA（University of Western Australia）見学ではオーストラリアの大学の特徴やオーストラリアの主要な産業が鉱山採掘であることを学びました。そして、キングス・パークではオーストラリアの自然や歴史について学び、ロットネスト島ではクウォッカの生態について、フリーマントルでは街歩きをし、その歴史について学びました。

週末のホームステイファミリーとの時間では地元の有名なビーチや観光名所となっている有名なブルーボートハウスをみたり、ミニゴルフをしたり、丘に行ったり、いちご狩りをしたりしました。これらの体験は日本では普段できないことで、とても楽しい時間をすごすことができました。

二週間目は、現地の学校体験がありました。特に日本と違う点が多すぎてびっくりしました。例えば、生徒一人ひとりが学校のノートパソコンではなく、自分のノートパソ

コンを持っていたことや、メイクをしていたり、ピアスをつけていたり、お菓子を持ってきたりもいいことなどです。また、朝の会がなく、授業が六校時目がないことにとってもびっくりしました。授業中は日本と比べてとても自由な雰囲気、ガムをかんだり、音楽を聞いたり、友達と話したりしていました。そして、学校が終わる時間がとても早く、部活も無いため、生徒たちは午後三時には帰宅するのが普通でした。

学校でたくさん友達を作ることができました。友達とは一緒にランチを食べたり、連絡先を交換したり、写真を撮ったりして楽しい時間を過ごしました。このような現地の学校を体験できたことはとても貴重な経験でした。

このホームステイを通して「海外に行く」ことはインターネットやテレビなどの情報だけでは得られないことがたくさん得られるのでとても大切なことだと感じました。海外留学を見ることによって、日本とはまったく異なる文化や価値観、生活の仕方、街並みなどたくさんの発見を得ることができます。それらはこれからの生活で物事に向き合ううえで大切な財産になると感じています。この経験を忘れず、大切にしていきたいと思います。

また、ホームステイ研修のなかでは、私のホームステイファミリーや他の人のホストファミリー、学校の友だち、ゴールド社の方たちやホームステイ研修をサポートしてくれた方、そしてホームステイ事業に参加したメンバーと一緒に過ごすことができ、とても楽しい思い出となりました。



緊張して迎えた出発の日、長いフライトを終えてシドニーに着いたとき、なんとも例えようのない初めての外国の空気感にとてもワクワクしました。パースに到着したときはワクワクよりも、これから始まる2週間の英語漬け生活に対する不安と緊張のほうが、大きかった気がします。そのような中で、対面したホームステイ先のホストファミリーがあたたかく迎え入れてくれたおかげで、とても充実した2週間を過ごすことができました。ホストファミリーとの対面した後、兄弟と一緒に家のすぐ裏にある公園でバスケットボールをしていると、ご近所さんに話しかけられました。僕は自分の英語に自信がなく、挨拶と自己紹介をするのが精一杯で、それ以上会話を続けることができませんでした。しかし、ホストファミリーと過ごしていくうちに、「意外と英語が聞き取れている」と気づき、日に日に英語力やコミュニケーション力にも自信が持てるようになりました。そして、「緊張していても話すときには、明るく振る舞うことが大切だ」と意識を変えられたおかげで、ご近所さんとも雑談を楽しむことができるようになりました。

忘れられない2週間の体験を報告します。



1日目、カバジャムワイルドライフパークに行き、オーストラリアならではの動物と触れ合うことができました。コアラやカンガルーなど、日本では触れることのできない動物に直接ふれられたことができ、とても貴重な経験となりました。この日、一番衝撃を受けたことは、600mlのペットボトルの水が約3ドルもしたことです。オーストラリアは、降雨量が少なく、水が貴重であることは事前に聞いていましたが、実際に目の当たりにすると驚きました。

2日目には、パース造幣局でオーストリアドルの歴史や、W Aミュージアムで原住民のアボリジニについて学びました。難しい説明でしたが、一生懸命聞き取ることに集中したことで、なんとか理解することができました。

3日目に訪れた西オーストラリア大学（UWA）では、大学内に住みついたクジャクが歩いたり、4日目には船で渡ったロットネスト島へ行き、クオッカと出会いました。エサをあげたり、触ったりすることはできなかったけれど、島のあちこちでたくさんのクオッカを見つけることができ、オーストラリアの豊かな自然を体感することができました。

5日目には、フリーマントルを散策して世界遺産であるフリーマントル刑務所に行きました。フリーマントルマーケットでは買い物を楽しみました。お土産を買うとき、どのお店も通常の値段より安く売ってくれたり、おまけをつけてくれたりして、現地の人の優しさを感じることができました。週末は、ホストファミリーと一緒にショッピングモールやキレイな石や宝

石の展示会に行ったり、フロアボールの試合を観戦しに行きました。石の展示会には、意外にもたくさんの子供がいて驚きました。

2週目、現地の学校「Bob Hawke college」に通いました。バディと過ごした学校生活は、日本の学校とは異なるところがたくさんあって、毎日が驚きの連続でした。まず、日本のような「ホームルームクラス」がなく、登校後は1限目の教室にいき、その後は授業ごとに教室を移動しました。また、日本より科目の種類が多く、ドラマクラスやグラフィックデザインなど、初めての目にする授業がいくつもありました。数学や英語は僕たちには難しすぎたので、バディと教室の外で過ごしました。バディやその友達も交えて、お互いについて質問し合ったり、勉強クイズで勝負をしたりして、友達の輪がどんどん広がり、仲を深めることができました。そして、学校で1番驚いたことは、生徒が自由すぎることです。授業中に音楽を聴いたり、飲食をすることは普通で、日本の学校では絶対に見ることができない光景でした。ただし、それは与えられた課題をしっかりとこなしてこそ許されている環境であり、とても羨ましく思いました。



オーストラリアでは人種に関係なく、みんながフレンドリーで、緊張していた僕にたくさん話しかけてくれました。そのおかげで気持ちがとても楽になり、すぐに仲良くなることができました。これからは僕も、ホームステイを通して培ったコミュニケーション力や英語力などを生かして、自分の視野を世界に向けて広げ、自分に自信をもって日々を過ごしたいと思います。「百聞は一見に如かず」という言葉とおり、実際に自分の目で見て、肌で感じたこの豊かな経験は、将来を切り拓くうえで大きな糧になると思います。

最後に、この事業に参加させてくれた先生方、教育委員会の方々、現地でコーディネートしてくれたGOLDの職員の方々、そして両親に感謝します。本当にありがとうございました。



ホームステイを通して

沖縄東中学校 3年 兼城 紗彩

私達は10月5日から19日までオーストラリアのパースに短期ホームステイに行きました。

シドニー空港についた瞬間から、ツーンとした日本とは違う匂いに海外を感じ、オーストラリアが乾燥地帯ということを実感しました。そして、シドニーから飛行機で4時間ほど移動し、西オーストラリアのパースへ到着しました。パースは、カラッとした空気で、ジメジメしてなく、気温が高くても風が冷たいような気候でした。

ホストファミリーと最初に対面したときに感じたことはとてもフレンドリーで、よそよそしさがなく、初対面からたくさんの質問をしてくれ、本当の家族のように受け入れてくれて、とても嬉しかったです。

動物園を訪れたときは、園内がとても大規模で、そこには見たことのない動物たちが沢山いました。白色のカンガルーがいたことや、放し飼いが多かったことが印象に残っています。

1週目、現地の大学へ行きました。大学構内をユースリーダーさんに案内してもらいながら見学しました。また、案内はすべて英語だったため、英会話の練習にもなりました。大学内には教会、広場、劇場などがあり、予想を覆す施設に驚きました。そして、英語のアクティビティを通して、みんなと親睦を深めることもできました。



ロットネスアイランドでは、たくさんの大きな建物がそびえ建っているというイメージを持っていましたが、実際には、たくさんの木と海に囲まれた、オーストラリア固有の有袋類であるクオッカたちが、生息している自然豊かな場所でした。島の案内人のお話では、ロットネス島の名前の由縁は、クオッカをネズミと間違えたオランダ人船長が、オランダ語で「ネズミの巣の島」を意味する（ロットネスト島 Rats Nest Island）とオランダ語で伝えたことが

ロットネスアイランドと名付けられた由来だと教えてもらいました。

キングスパークに行ったときは、触り心地がやわらかい花や硬い花、サンプルのような不思議な花などを見たりしました。また、高台からみた町並みがすごくきれいで感動しました。公園内にあるショップに行くと、オーストラリアの原住民であるアボリジニのデザインが使われたお土産がたくさん売っていました。

2週目、現地校での学校生活がはじまりました。現地校での毎日は驚きの連続でした。「リセス」という短いおやつ時間があったり、授業中にお菓子を食べていたり、先生と生徒、男

女の距離が近かったり、誰とでも気兼ねなく接していたりと、日本とは違う、海外らしい光景を見ることができました。

ホームステイに行く前に私は、自分の英語力だけにたよらず、ジェスチャーなども交えて積極的にコミュニケーションをとることが大切だと話しましたが、実際に海外に行ってみると、まさにその通りでした。日本とは違い、自分から話しかけなければ会話についていくことが難しく、わからないことを声に出して言わないと、わかっていると勘違いされてしまい、自分が置いてきぼりになってしまうという経験を留学中に何度も経験しました。しかし、そこで諦めずに、自分の伝えたいことを意地でも伝えようとすると、相手もそれに答えてくれました。このことから、自分から行動すると、相手もそれに応えようとしてくれるところが海外の良いところだと思いました。



初めての海外留学では、勉強になった点も多かったですが、反省点も多かったです。しかし、このような経験を経たことによって、私は日本に帰ってきた今でも、たくさんのことに挑戦していきたいと思っています。そして改めて今回のホームステイでの経験の中で、自分が将来やりたいことの選択肢が増えたとも思います。自分の視野を広げ、心も成長し、とても貴重な経験だったと私は思います。

そして、私達を受け入れてくれたホストファミリーのみなさん、このホームステイを企画し、最後まで私達をサポートしてくれた教育委員会や JOCA のみなさん、ホームステイに行くことを応援してくれた家族に感謝しています。

このホームステイの経験をいかして、これからも自分から積極的にいろいろなことに挑戦していき、自分自身をたくさん成長させていきたいと思っています。



Host family

— 派遣前後アンケート —



★★ ホームステイ 派遣前 アンケート ★★

1. ホームステイ派遣のきっかけは？ ＊複数回答有り

- | | | |
|-----|-------------------------------|-----|
| 1位 | 外国の生活を体験してみたかった！外国の人と交流したかった！ | 10票 |
| 2位 | 英語への興味・英語の上達のため | 8票 |
| 3位 | 家族や先生から勧められた | 5票 |
| その他 | | |

2. ホームステイに向けて、一番の『期待』と一番の「不安」は？ ＊複数回答

- | 『期待』 | | 「不安」 | |
|------|---------------------|------|-------------------|
| 1位 | ホストファミリー宅での生活体験 11票 | 1位 | 言葉や文化の違い 8票 |
| 2位 | 文化や歴史等への興味 10票 | 1位 | 食生活の違い 8票 |
| 3位 | 自分の英語力を試す 8票 | 2位 | ホストファミリーとの人間関係 5票 |

3. 今の自分の《英語のちから》の自己評価は？

項 目	1	2	3	4	5
ヒヤリングの ちからは？	聞き取れない	少しなら 聞き取れる	半分くらい 聞き取れる	ある程度は 聞き取れる	ほとんど 聞き取れる
英語で コミュニケーションを とること	できない	英単語で コミュニケーション をとるくらい	簡単な短い英文や ジェスチャーで意志の 疎通ができる	英語文章表現で ある程度の会話が できる	英会話の いろんな表現を用いて 会話を自由に楽しめる

ヒヤリングの
ちからは？

聞き取れない 0人	少しなら聞き取れる 7人	半分くらい聞き取れる 1人
ある程度は聞き取れる 3人	ほとんど聞き取れる 0人	

英単語でコミュニ
ケーションをとること

簡単な短い英文やジェスチャーで意志の疎通ができる	6人
英単語でコミュニケーションをとるくらい	4人
コミュニケーションはできない	1人



4. みんなの『自己目標』！！（原文そのまま）

- ★ 英語で自分の意見を伝えること。
- ★ 自分に自信をもてるようにする！
- ★ ホームステイ先での生活でコミュニケーションをしっかりとれるようにする。友達を作る。
- ★ ホームステイ先では自分から積極的に話しかける。会話をできるようにする。
- ★ 英語でのコミュニケーションをできるだけやってみる
- ★ ホストファミリーとのコミュニケーションや文化にふれるなどいろいろなことに挑戦して違った環境にも適応できるようになる。
- ★ 自分の気持ちをちゃんと相手に伝える！コミュニケーションをとる。
- ★ オーストラリアの人達と仲良くなる。
- ★ 英語でのコミュニケーション能力を向上して、喋れるようになる。
- ★ ジェスチャーを混ぜながら頑張って英語で意思疎通をはかる。
- ★ たくさん現地の人と話すぞ！

派遣後、中学生11人にアンケートをとりました！！

1.ホームステイを終えて、あなたの「英語のちから」はどうなったかな？（自己評価の変化）

	ヒアリングのちからは？				
	1	2	3	4	5
ホームステイ最初のころのわたし	聞き取れない	少しなら聞き取れる	半分くらい聞き取れる	ある程度は聞き取れる	ほとんど聞き取れる
ホームステイ後半のわたし	聞き取れない	少しなら聞き取れる	半分くらい聞き取れる	ある程度は聞き取れる	ほとんど聞き取れる

最初のころよりヒアリングのちからが 下がった ↓↓↓ down	0 人
最初のころよりヒアリングのちからは かわらない →→→ unchanged	0 人
最初のころよりヒアリングのちからが 上がった ↑↑↑ up	11 人

詳細はこちら！



1 聞き取れない ↑ 2 少しなら聞き取れる	1 人	2 少しなら聞き取れる ↑ 4 ある程度は聞き取れる	1 人
1 聞き取れない ↑ 3 半分くらい聞き取れる	1 人	4 ある程度は聞き取れる ↑ 5 ほとんど聞き取れる	2 人
2 少しなら聞き取れる ↑ 3 半分くらい聞き取れる	6 人		

1.ホームステイを終えて、あなたの「英語のちから」はどうなったかな？（自己評価の変化）

	英語でコミュニケーションをとること				
	1	2	3	4	5
ホームステイ最初のころのわたし	できない	英単語でコミュニケーションをとるくらい	簡単な短い英文やジェスチャーで意思疎通ができる	英語文章表現である程度の会話ができる	英会話のいろんな表現を用いて会話を自由に楽しめる
ホームステイ後半のわたし	できない	英単語でコミュニケーションをとるくらい	簡単な短い英文やジェスチャーで意思疎通ができる	英語文章表現である程度の会話ができる	英会話のいろんな表現を用いて会話を自由に楽しめる

最初のころより英語でコミュニケーションをとるちからが 下がった ↓↓↓ down	0 人
最初のころより英語でコミュニケーションをとるちからが かわらない →→→ unchanged	1 人
最初のころより英語でコミュニケーションをとるちからが 上がった ↑↑↑ up	10 人

詳細はこちら！



1 できない ↑ 3 簡単な短英文やジェスチャーで意思疎通ができる	1 人	4 英語文章表現である程度の会話ができる ↑ 5 英会話のいろんな表現を用いて会話を自由に楽しめる	2 人
2 英単語でコミュニケーションをとるくらい ↑ 3 簡単な短英文やジェスチャーで意思疎通ができる	6 人	3 簡単な短英文やジェスチャーで意思疎通ができる ↑ 4 英語文章表現である程度の会話ができる	1 人
3 簡単な短英文やジェスチャーで意思疎通ができる → 3 簡単な短英文やジェスチャーで意思疎通ができる	1 人		

2.ホームステイの研修内容で印象に残ったことや良かったこと！

楽しかったことや印象に残ったことを各自教えてもらいましたので紹介致します。



ロットネスト島見学（海に入ったこと）	パースの街を見学出来た事
UWA（西オーストラリア大学）に行けたこと	空港でホストファミリーとのお別れ
フリーマントルめぐり	フィッシュアンドチップス
アンザックビスケット	コザのまちを回ったこと
キングスパーク	空港でホストファミリーとのお別れ
誕生日会に参加したこと	エイサーと島人の宝の発表会
ココナッツ好きじゃないのにラミントンがおいしくてめっちゃ食べた事	
その他	空港が楽しかった
	学校の人みんな身長たかい
	ホストファミリーとの休日
	クリケットをやったこと
	マックに行ったこと
	事前研修
	近所のお兄さんや典祐君とバスケした事
	学校の人みんな身長たかい
	フロアボール
	ストロベリーピッキング
	カバシャム動物園
	ロットネスト島でパイを食べた
	フェリーから何かが飛んでいるのが見えた
	バーベキュー

3.ホームステイを体験して、なにか自分が変化したとを感じる？（複数回答）

ア.積極的に became / 社交的に became	10 人
イ.外国や世界のことに興味が増した	9 人
ウ.日本や沖縄のことに興味が増した/日本や沖縄の文化伝統に誇りに感じるようになった	4 人
エ.責任感がでてきた/時間を守るようになった	4 人
オ.家族や周囲の方に感謝の気持ちを感じた	7 人
カ.考え方や感じ方が広がった/違う視点をもてるようになった	6 人
キ.相手の気持ちや感情を考えるようになった	6 人
ク.その他（自由に記述してね）	
➡ 英語力があがった ➡ 声が大きくなった。服装を気にせず外に出られるようになった。 ➡ もっといろんな世界を見てみたい	

4. ホームステイを終えて、心残りとなっている事は？（自由に記述してね）

- ⊙ もっと英語を勉強しておけばよかった
- ⊙ もうちょっと積極的に話しかければよかった。分からないものはその場で解決するべきだった。
- ⊙ お土産をもっと買えばよかった。
- ⊙ もっと日本の事を伝えたかった。
- ⊙ もっと写真をとればよかった。

5. ホームステイの中で困った事がありますか？（自由記述）

- ♠ 英語が速すぎたこと
- ♣ 洗濯とかあらいものもこまめにやらない。
- ♥ 食生活の違い
- ◆ 研修後の家での時間になにをしづらいかわからなかった。

6. ホームステイを経験して、英語への興味関心は？（複数回答）

イ. 英語がもっと好きになった/興味が高まった	8 人
ロ. 将来、またホームステイや留学をしたくなった！	10 人
ハ. 英検やTOEIC、TOEFL等の検定を受けてみようと思う。	4 人
ニ. 国際的な活動に興味湧いてきた！活動に参加してみようかな。	6 人
ホ. その他	0 人

7. 英検について教えてください

現在取得級

2級	準2級	3級	4・5級	なし
2	4	2	2	1

受験予定級

準1級	2級	準2級	3級	なし
1	2	3	0	4

8. ホームステイを終えて、将来の進路は？（自由記述）

- ☼ 海外の大学も視野に入れたい
- ☼ 将来大学留学でUWAにいきたい
- ☼ 海外で獣医として活躍したい！
- ☼ 日本の中学校英語教員か外国の中学校の日本語の先生。UWAに行ってみたくなった。
- ☼ 英語関係の学校に行きたい
- ☼ トリリンガルになること
- ☼ 海外に住みたい
- ☼ 医者になりたいです。

9. こんなプログラムがあったら…というものはありますか？

- 👑 海外に行かなくても海外の同級生と交流できる
- 👑 ショッピングモールとかにみんなでいく。現地の人が行っているショッピングモールでも日本との違いがたくさんありそうだから。
- 👑 ホストファミリーを全員集めてみんなでパーティをやったらすごく楽しいと思います。
- 👑 ホストファミリーを全員集めてみんなでパーティをやったらすごく楽しいと思います。
- 👑 次はシドニーにいきたいです。
- 👑 オペラハウスにいったみたい

10. ホストファミリーについて（複数回答）

A.とても優しくった・いろいろと気を使ってくれた	11 人
B.積極的に話したり、交流をもってくれた	10 人
C.歓迎する気持ちが嬉しかった	10 人
D.日本のことや沖縄のことを知りたかった	8 人
E.海外の文化や歴史等を教えてくれた	9 人
F.あまり交流をもつことはなかった	1 人
G.生活のリズムがあわなかった	1 人
H.その他	
☒ いろんなところに連れてってくれた	
☒ 食事が少なかった	

11. 学校みんなに、どんなホームステイでの体験を伝えたい？

- 👑 習字を教えたことやバスケットをしたこと
- 👑 もっと自分らしくてもいいよ！海外おいしいもの多いよ！
- 👑 海外の人はみんないい人！ホストファミリーも積極的に話しかけてくれて英語力がめっちゃ伸びます。
- 👑 ホームステイに行ったら英語の見え方が変わるので必ず挑戦してほしい。
- 👑 現地校のことや、気温、景色など体験できたこと全部を伝えたい。
- 👑 英語が出来なくてもホストファミリーは優しくて大丈夫だから機会があったら挑戦してほしい。
オーストラリアの学校の自由さを伝えたい
- 👑 海がとても綺麗だった。Canをカンと発音したり、todayをトゥダイと言っていて同じ英語にも違いがあった
- 👑 ロットネスト島に行ったこと
- 👑 ほんとに文化が全く違うこと



12.最後にひとこと

2週間では足りないと思うほど毎日が楽しくて充実していた。

越来中 吉本 梨美加

この2週間でたくさんの貴重な経験をさせていただきました。
この事業に関わった皆様、本当にありがとうございました。

コザ中 島袋 紗帆

このような体験ができてとてもうれしいし、もっと挑戦してみたいと思いました。

山内中 金 主賀

もうちょっとオーストラリアにいたかった。
学校に行ったらなんか英語しゃべってみて！って言われ
ました。
とても楽しかったです。



またパースに行きたい！

安慶田中 新城 利亜己

たのしかった！

宮里中 真栄城 南瑠

今回のホームステイ事業に参加させていただき
ありがとうございました。この経験は一生の宝物
です！

美東中 屋良 愛美

海外に視野を拡げることができて良い経験になった。

宮里中 嘉陽田 典祐

ときどき英語がぜんぜん通じなくてとても苦しかったけれど、
すごく貴重な経験ができました。

沖繩東中 兼城 紗彩

この機会を与えてくれてありがとうございました。

美東中 山内 怜

すてきなホームステイに参加させてくださり、ありがとうございました。

美東中 新屋 陽



— 参考資料 —

*事業実施要綱

*生徒募集要項

令和 6 年度 沖縄市中学生海外短期ホームステイ派遣事業実施要綱

1.趣旨

国際化の進展に伴い、広い視野をもち、異なる文化をもった人々とともに協調して生きていく資質や能力を育成することが一層求められており、沖縄県においては「沖縄 21 世紀ビジョン」の具現化の一つとして、「英語立県沖縄」を推進している。

沖縄市は「国際文化観光都市」を宣言して、中部地域を含む沖縄県の観光基地として、人びとの交流の街、国際間の学術・文化交流の街、さらにスポーツの交流を基調としたまちづくりを目指しており、それを担う次代の人材育成に取り組んでいるところである。

そこで、中学生を対象に海外短期ホームステイ派遣事業を実施して、生徒の語学への興味関心や学びの意欲をさらに喚起し、異文化理解や国際理解を更に深めることを目的とする。

2. 派遣の概要

(1) 派遣期間

10 月の秋季休業期間中を含む、令和 6 年 10 月 5 日（土）から 10 月 19 日（土）までの 15 日間とする。

(2) 派遣先

オーストラリア連邦に派遣する。

(3) 派遣人数

① 派遣生徒：合計 11 名

沖縄市立中学校より推薦された生徒：合計 9 名（各中学校 1 名 宮里中は各 2 名）

派遣候補生徒：合計 2 名（前年度ストーリーコンテスト 1 年生の部及び 2 年生の部の最優秀賞受賞者）

※但し、派遣候補者が辞退した場合は、コンテストの次点者を順次繰り上げる。

② 引率者 2 名以内とする。（市内教職員等）

(4) 事業内容

① オリエンテーション・事前研修

② 派遣先におけるホームステイ研修

③ 事後研修

④ 研修報告会

⑤ 報告書作成（体験作文及び写真等）

3. 応募資格

(1) 沖縄市立中学校に在学する第 2 学年及び第 3 学年の生徒であること。但し、前年度の本市ストーリーコンテスト最優秀賞受賞者において、優勝者が北谷中学及び球陽中学の場合、本市住所を有する生徒であること。

(2) 令和 6 年 1 月 1 日現在、応募生徒及びその保護者が沖縄市内に住所を有していること。

(3) 英語に高い興味・関心をもつ生徒で、かつ外国人とコミュニケーションをとることに意欲のある生徒であること。

(4) 心身共に健康な生徒であること。

(5) 友好的で協調性があり、表現力も充分保持している生徒であること。

(6) 学校の諸行事等に積極的に取り組む姿勢が見られる生徒であること。

(7) 家庭で英語を母国語として使用していない者

(8) 過去に本事業に参加した生徒ではないこと。

(9) 応募した生徒の学校給食費や学校徴収金に未納がないこと。

(10) 保護者に市税の滞納がないこと。

4. 派遣生徒の選考及び決定

- (1) 学校長は、応募生徒の中から派遣生徒を選考する。選考方法は、1次選考（書類・作文）と2次選考（面接）を実施する。派遣候補生徒は、1次選考の作文を免除とする。
- (2) 学校の選考期間は、令和6年6月4日(火)～6月11日(火)までとする。
- (3) 学校長は、選考した生徒を教育委員会へ推薦し、当該生徒の関係書類を令和6年6月18日(火)までに提出する。
- (4) 教育長は、推薦された生徒を面接し、派遣生徒を決定する。
- (5) 教育委員会の選考期間は、令和6年6月20日(木)～6月27日(木)までとする。
- (6) 派遣生徒の決定は、令和6年7月3日(水)とする。（予定）

5. 提出書類

- (1) 本事業に応募しようとする生徒及びその保護者は、下記のとおり学校長へ書類を提出する。
 - ① 派遣事業申請書（様式第1号） … 1部〈保護者が記入〉
 - ② 作文『海外短期ホームステイ派遣事業に応募する動機と抱負』 … 1部〈生徒が記入〉
- (2) 学校長は、選考後、教育委員会へ推薦する生徒が提出した上記①～②の書類とともに、下記の書類を教育委員会へ提出すること。（※ただし⑤、⑦、⑨については、保護者が準備し、学校がまとめて教育委員会へ提出すること。）
 - ③ 校長推薦書（様式第2号） … 1部〈学校作成〉
 - ④ 派遣生徒選考評価表 … 1部〈学校作成 ※派遣生徒選考要領参照〉
 - ⑤ 保護者同意書（様式第3号） … 1部〈保護者記入後に学校提出〉
 - ⑥ 学校給食費・学級費等学校徴収金の完納証明書（様式第4号） … 1部〈学校作成〉
 - ⑦ 滞納のない証明書（納税課で取得）※保護者（納税義務者分）の証明… 1部〈保護者が取得後に学校提出〉
 - ⑧ 保健調査票（写し） … 1部〈令和6年度の学校原本の写し〉
 - ⑨ 住民票謄本 … 1部〈保護者が学校に提出〉
- (3) 提出締切 令和6年6月18日(火) 指導課 必着

6. 派遣生徒の決定取り消し

派遣生徒に決定後、派遣することが不適当と認められる事由があった生徒は、その派遣生徒の決定を取消することができる。

7. 派遣費

- (1) 海外短期ホームステイに係る費用のうち、教育委員会は以下のとおりに負担する。
 - ア. 生徒一人あたりの派遣費用のうち、下記のイを除いた額の八割（千円未満切捨て）を負担する。
但し、天災及びその他特別な事由により追加の負担等が発生した場合にはその限りではない。
 - イ. 派遣費用のうち、以下の経費については派遣生徒の自己負担とする。
 - ① パスポート発行に係る費用
 - ② 個人的な経費（お土産代、電話料金、超過手荷物料金、クリーニング代等）
 - ③ 派遣費用のうち、上記①②を除いた額の二割程度
 - ウ. 要保護及び準要保護世帯の生徒については、派遣費用（イの①②を除く。）の全額を負担する。
 - エ. 派遣生徒に決定した後、自己都合による辞退や派遣生徒の取消をうけた生徒で、本事業実施においてキャンセル

料金が発生する場合には、全て派遣生徒の負担とする。

8. 滞在

原則として「ホームステイ方式」とし、移動等の特段の理由がある場合にはその限りではない。

9. 実施事業者の決定

- (1) 海外短期ホームステイ派遣事業を実施する上で、「実績」「安全性」「研修内容」等を審査して信頼できる実施業者を選定する。
- (2) プロポーザル方式（企画提案）にて選定する。

10. 保険について

- (1) 海外短期ホームステイに係る保険は選定業者に団体保険など基本的な補償を備えた保険を提示いただき、保護者説明会等にて保護者が契約を行う。
- (2) 当該保険に係る費用は派遣費用の一部として教育委員会が支払いを行う。
- (3) 当該保険以外の保証等に係る契約手続き及び費用は保護者にて負担する。

令和 6 年度 沖縄市中学生海外短期ホームステイ派遣生徒募集要項

1. 趣旨

国際化の進展に伴い、広い視野をもち、異なる文化をもった人々とともに協調して生きていく資質や能力を育成することが一層求められており、沖縄県においては「沖縄 21 世紀ビジョン」の具現化の一つとして、「英語立県沖縄」を推進している。

沖縄市は「国際文化観光都市」を宣言して、中部地域を含む沖縄県の観光基地として、人びとの交流の街、国際間の学術・文化交流の街、さらにスポーツの交流を基調としたまちづくりを目指しており、それを担う次代の人材育成に取り組んでいるところである。

そこで、中学生を対象に海外短期ホームステイ派遣事業を実施して、生徒の語学への興味関心や学びの意欲をさらに喚起、異文化理解や国際理解を更に深めることを目的とする。

2. 主催 沖縄市教育委員会

3. 派遣地 オーストラリア連邦に派遣する。

4. 期間 10 月の秋季休業期間中(10 月 11 日～14 日)を含む、10 月 5 日から 10 月 19 日までの 15 日間

5. 派遣人数 合計 13 名（派遣生徒 11 名+引率者 2 名）

① 推薦生徒：各中学校より推薦された生徒 各 1 名（宮里中は各 2 名）

② 派遣候補生徒：令和 5 年度ストーリーコンテスト 1 年生及び 2 年生の部において、最優秀賞を受賞した生徒 各 1 名

③ 引率者：2 名以内とする。（市内教職員等）

6. 事業内容
- ① オリエンテーション・事前研修
 - ② 派遣先におけるホームステイ研修
 - ③ 事後研修
 - ④ 研修報告会
 - ⑤ 報告書作成（体験作文及び写真）

7. 募集期間 令和 6 年 4 月 30 日（火）～ 令和 6 年 6 月 3 日（月）16:45 まで 各学校に提出

8. 応募資格

- (1) 沖縄市立中学校に在学する第 2 学年及び第 3 学年の生徒であること。但し、前年度の本市ストーリーコンテスト最優秀賞受賞者において、優勝者が北谷中学及び球陽中学の場合、本市住所を有する生徒であること。
- (2) 令和 6 年 1 月 1 日現在、応募生徒及びその保護者が沖縄市内に住所を有していること。
- (3) 英語に高い興味・関心をもつ生徒で、かつ外国人とコミュニケーションをとることに意欲のある生徒であること。
- (4) 心身共に健康で規律ある団体生活及び団体行動ができる生徒。
- (5) 友好的で協調性があり、表現力も充分保持している生徒。
- (6) 学校の諸行事等に積極的に取り組む姿勢が見られる生徒。
- (7) 原則として、全事業日程（事前研修会、事後研修会等）に参加できる生徒。

- (8) 家庭で英語を母国語として使用していない者
- (9) 過去に本事業に参加した生徒ではないこと。
- (10) 応募した生徒の学校給食費や学校徴収金に未納がないこと。
- (11) 保護者に市税の滞納がないこと。

9. 応募方法

- (1) 応募をする生徒は、下記の書類を各学校長に提出すること。
 - ① 派遣事業申請書（様式第 1 号）〈保護者が記入〉
 - ② 作文 〈生徒が記入〉※派遣候補生徒は 1 次選考の作文を免除とする。
課題：『海外短期ホームステイ派遣事業に応募する動機と抱負』（800 字程度 生徒自筆 様式任意）
- (2) 学校長推薦が決定した生徒は、以下の書類を学校長に提出すること。
 - ③ 保護者同意書（様式第 3 号）
 - ④ 滞納のない証明書（納税課で取得） ※保護者(納税義務者)の証明
 - ⑤ 住民票謄本（市民課で取得）

10. 派遣生徒の選考及び決定

- (1) 学校長は、応募生徒の中から派遣生徒を選考する。選考方法は、1 次選考（書類・作文）と 2 次選考（面接）を実施する。
- (2) 学校の選考期間は、令和 6 年 6 月 4 日（火）～6 月 11 日（火）までとする。
- (3) 学校長は、選考した生徒を教育委員会に推薦し、当該生徒の関係書類を令和 6 年 6 月 18 日（火）までに提出すること。
- (4) 教育長は、推薦された生徒を面接し、派遣生徒を決定する。
- (5) 教育委員会の選考期間は、令和 6 年 6 月 20 日（木）～6 月 27 日（木）までとする。
- (6) 派遣生徒の決定は、令和 6 年 7 月 3 日（水）とする。（予定）

11. 派遣生徒オリエンテーション

- (1) 実施期日 令和 6 年 7 月 16 日(火)（予定）
- (2) 実施場所 沖縄市教育委員会 会議室（市役所 7 階）
- (3) 内容 派遣先での生活面の心構え、準備、語学研修に関する説明
- (4) 参加者 派遣生徒、教育委員会担当

12. 事前研修及び事後研修

- (1) 事前研修は、派遣期日までに 4 回程度行う。
- (2) サマーイングリッシュスクール（7 月 22 日～8 月 2 日）に参加し、事前に語学研修等を行う。
- (3) 事後研修は、派遣後に 4 回程度行う。
- (4) 事前研修及び事後研修の日程は、後日改めて通知する。

13. 派遣生徒の決定取消

派遣生徒に決定後、派遣することが不適当と認められる事由があった生徒は、その派遣生徒の決定を取消することがあります。

14. 派遣費用

- (1) 海外短期ホームステイに係る費用のうち、教育委員会は以下のとおりに負担する。
- ア. 生徒一人あたりの派遣費用のうち、下記のイを除いた額の八割（千円未満切捨て）を負担する。
但し、天災及びその他特別な事由により追加の負担等が発生した場合にはその限りではない。
 - イ. 派遣費用のうち、以下の経費については派遣生徒の自己負担とする。
 - ① パスポート及び渡航ビザ取得等の料金（手続きに関しては旅行業者のサポートがあります。）
 - ② 個人的な経費（お土産代、電話料金、超過手荷物料金、クリーニング代等）
 - ③ 総額から上記①②を除いた額の二割程度
 - ウ. 要保護及び準要保護世帯の生徒については、派遣費用（イの①②を除く。）の全額を負担する。
 - エ. 派遣生徒に決定した後、自己都合による辞退や派遣生徒の取消をうけた生徒で、本事業実施においてキャンセル料金が発生する場合には、全て派遣生徒の負担とする。

15. その他

- (1) 派遣生徒は、感染症等の感染状況に応じて、必要な対応をすること。